

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 20 日現在

機関番号：34424

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：平成 22 年度～平成 24 年度

課題番号：22530774

研究課題名（和文） 精神疾患および発達障がいにおける樹木画の特徴の類型化とイメージ形成の研究

研究課題名（英文） Study of image formation and typology of the characteristics of the tree image (Baumtest) in development disorder and mental illness

研究代表者 杉岡津岐子

梅花女子大学・心理こども学部 教授  
(20259401)

研究成果の概要（和文）：

初学者の樹木画（Baum test）の査定能力を高めるために、熟練者などの査定形成についての分析を行った。また、熟練者を含めた樹木画を中心としたケースカンファレンスを重ねることにより、査定能力の向上が図れることがわかった。精神疾患および発達障がいにはそれぞれ特徴的なサインがみられることがわかった。

研究成果の概要（英文）：

In order to heighten the assessment capability of a beginner's Baumtest, analysis of an expert's etc. assessment formation was conducted.

Moreover, by piling up the case conference centering on Baumtest including an expert showed that improvement in assessment capability could be aimed at.

It turned out that a sign respectively characteristic of mental illness and developmental disorder being is seen.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
22 年度	1,200,000	360,000	1,560,000
23 年度	500,000	150,000	650,000
24 年度	1,500,000	450,000	1,950,000
年度			
年度			
総計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：心理学・臨床心理学

キーワード：(1) 樹木画（バウムテスト）(2) 精神疾患 (3) 発達障がい(4) イメージ形成  
(5) 臨床心理士教育 (6) 類型化 (7) データベース (8) 心理査定

### 1. 研究開始当初の背景

①樹木画（Baumtest）は人格検査として 1949 年に K. Koch が提唱したものである。それは筆跡学や空間象徴理論に依拠した仮説に基づいており、現在においても樹木画解釈の基本となっている。また、現在よく用いら

れているものとしては、Blander, K(1977)の研究があり、これは包括的に樹木全体の構造や空間的象徴、根・幹・樹幹などの核部分の描写についての詳細な分類をおこない、解釈を試みているもので樹木画解釈の上で重要なものとなっている。

樹木画 (Baumtest) は、さまざまな観点からの研究がなされ、その発展が見られてきた。たとえば、発達的研究では、その幹と樹幹の比率や使用空間 (一谷他 1986) などが発達とともに変化していくことや樹種の選定がその風土と発達とのかかわりにより、変わってくる (中尾他 1975、1978、1982、1983)、また、養育環境や教育 (一谷他 1975 中尾 1979) によってその発達的变化は影響を受けることなど、多くの研究がある。

また、文化人類学的には、各民族の特徴 (藤縄他、1971) を抽出する研究などが行われてきた。研究代表者も 2003 年より 2006 年まで濱野清志とともに、「樹木画テストの発達の指標の普遍因子と文化による固有因子の抽出への試み」(2007) の調査研究、分析をおこなった。この研究の目的は、グローバリゼーションの進む現代、樹木画法による心理査定にどれほどの文化的・風土的影響があり、どれほどの通文化的、風土によらない普遍的なものがあるのかを調べることにあった。

また、心理査定において同様に重要な研究は、現実の精神病理に注目した研究である。例えば、山中 (1976) のメビウスの木などの研究である根やうろなど様々な部分への解釈仮説に対する実践的研究が、現在でも数多くなされている。その中でも、Stora, R. は各指標が心理学的に明確な意味を持った「心理学的サイン」の確定作業をおこない、de Castilla, D. (1994) は更にそれを改良し発表している (バウムの活用マニュアル (阿部訳 2002))。また、Fernandes, L. (2005) (樹木画テストの読みかた (阿部訳 2006)) もそれぞれのサインから性格特徴を感情・情緒領域、社会的領域、知的領域に分けて分析する読み方を示している。

実際、臨床的に樹木画 (バウムテスト) を査定するとき、幹の先端処理や幹や枝、樹冠

などの形態的特徴からの分析やサインのみならず、その樹木画のもっている全体的なイメージ (いわゆる「～な感じ」と表現されるもの)、包括的な印象も、患者あるいはクライアントのパーソナリティを、全体的に理解するための重要な判断材料となっている。しかしながら、全体的なイメージ、包括的な印象の、その判断はいわば熟練者の名人芸のようなものとして、経験則に従って直観的になされること部分が多いことは否めない。

臨床心理士養成の大学院教育の中で、上記のように樹木画のイメージを臨床像と結びつけて理解する方法を経験に頼るのではなく、特に初学者間で共有できる形にする必要を感じてきた。それはまた、樹木画 (バウムテスト) を用いる臨床心理分野全体に大きな寄与をもたらすものと考えられる。

## 2. 研究の目的

樹木画 (Baumtest) において熟練者はどこに注目し、どのようにその樹木画の印象・イメージを読み解いていくのかを分析する。また、発達障がいや精神疾患によって、樹木画がどのような特徴・イメージを持つかを定量的・定性的に分析する。それにより、樹木画の心理査定としての信頼性・妥当性を確立すること、および、どのようにして、初学者にその解釈技術を養成するかにある。

## 3. 研究の方法

1、A 心理教育相談センターでの初回面接等で得られた樹木画 (255) と来談者の臨床データをパソコン上でデータベース化した。

2、事例の樹木画のそれぞれについて分析を行う。A) 形式分析 (描画の強弱、筆圧、形態の歪み、原始性、象徴性構図、画面構成、など) B) 心理学的サイン分析をおこなう。C) 内容分析 (初回面接時の PDI を中心に) D) 印象評定 (症状別の印象評定の特徴の検

出)

3、経験の豊富な臨床心理士, 臨床心理士になっただけのもの、研究生、修士2回生、1回生を対象に研究会形式で1枚の樹木画 (Baumtest) をめぐって個々の発言してもらいそののち討議を行なう。

#### 4. 研究成果

(1) 初心者と臨床心理士 (経験 3 年以下)、ベテラン臨床心理士の樹木画を見ての評定の違いについての検討

方法：調査対象者は修士1・2回生 (以下 M) 10 名, 臨床心理士資格を取得したばかりの卒業生 (以下 G) 6 名, 熟練した臨床家である教員 (以下 T) 4 名である。評定のカテゴリーは KJ 法を参考に分類した。

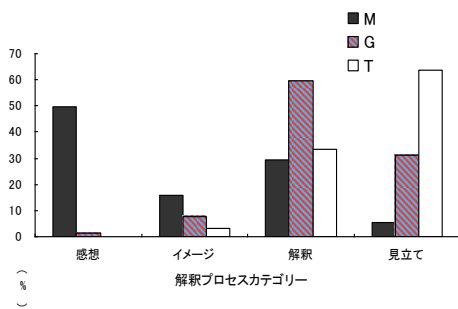


図1. M・G・Tの解釈プロセスカテゴリー別の割合

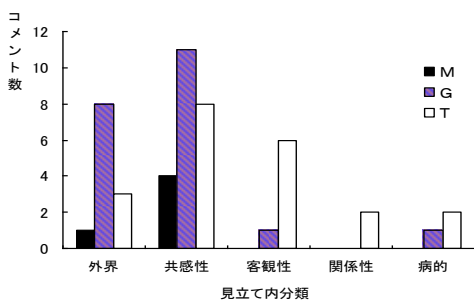


図2. M・G・Tの見立てにおける相違

カテゴリー分類の結果 (図 1, 図 2), 初学者は単なる印象や木の叙述に近いものが最も多い。経験者は知識からのサインアプローチが目立った。それに対し, ベテラン臨床心理士は, 病的的査定のみならず, 今後

の心理療法過程への見通しにまで言及することが多かった。つぎに“評定カテゴリー分類 (表 1)”を用いて, 研究会参加者の評定能力がどのように変化したのかを検討した。図 3, 図 4 は, 2 年前 M1 であった院生と卒業 1 年であった卒業生が評定した樹木画と, それと同じ樹木画を 2 年経過後に同じ人が評定した内容の差を示したものである。

表 1 評定のカテゴリー分類

感想 (感覚的 D-s, 直観 D-i, 思考 D-t, 感情 D-a)
イメージ (Im)
解釈 (知的解釈 Ip-I, 感情的解釈 Ip-a)
見立て (外界と対象者との関係 A-c, 対象者への共感的理解 A-a, 客観的理解 A-o, 検査者・対象者の関係性 A-r, 病理・展望 A-d)

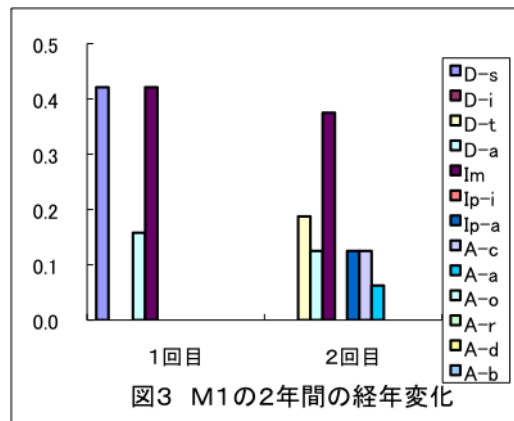


図3 M1の2年間の経年変化

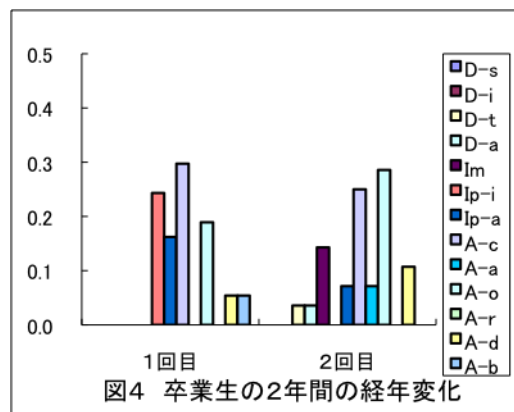


図4 卒業生の2年間の経年変化

図 3 では M1 の時には, 感想とイメージを述べるだけであったものが, 2 年後には同じ感想でも思考が増え, また, 見立てが出てき

ていることがわかる。

図4では卒業1年であった卒業生は、1回目には知的解釈が多いが、2年後には見立てが増えていることがわかる。つまり、卒業すぐは知識から知的解釈をしていたものが、そこからさらにクライアントの全体像を見ていくようになっていくことがわかる。これらの変化は、2年間の研究会の中で、他者の見立てを聞くうちに、自分たちが感じているイメージや知的解釈が見立てにどう繋がっているのかがわかって来るようになり、M1はM1なりに、卒業生は卒業生なりに進歩してきたものと思われる。それゆえ、様々な学年の学生と卒業生と教員や嘱託職員が1枚の樹木画をみて、その所見を述べることは、樹木画の所見を身につけるのに有用であると思われる。

## (2) 養育者と子どもの樹木画の検討

本研究を続けていくうち、養育者と子どもの樹木画について検討する必要性を感じてきた。つまり養育者にも樹木画を実施することにより、子どもの主訴についての理解をより深めていくことができるのではないかと考えた。そこで、子どもの問題を主訴として来談した母親と子どもの樹木画から、母子の関係性を中心とした家族力動についてアセスメントを行った事例を中心に検討した（来談した養育者は母親である場合が圧倒的に多いので、ここでは母子間についてまとめている）。

方法：1. 対象：子どもの問題を主訴にA相談センターに来談し、母子並行面接を継続することになった母子8組（子どもの年齢は8歳～17歳）、内2組については、詳しく検討する。

2. 手続き：インテーク面接時に樹木画を母子別々に行った。指示は「一本の木を描いて下さい」であった。分析には、母子の樹木画の

大きさ、樹形、位置、幹先端処理、幹下方処理、枝の有無及び形状、実の有無、樹冠の形状、大地線の有無及び形状、根の有無及び形状、樹皮表現、描線（筆圧を含む）、附属物などを中心に類似点と相違点を抽出した。

## 【結果と考察】

表2.を見ると、母子の関係がよく見えてくる。子どもが主訴で来ているケースでも、母親の病理が子どもの問題と深く関わっていると考えられる場合（母親の病理が深い場合）は、母子の樹木画が類似しているとは言い難い。それに比べ、母親の健康度が高い場合は、母子間の樹木画は類似している。たとえば、表1.のケース1、5、8は樹形等類似が多い。しかし、ケース2と6のように、母の病理が深い場合は、類似が多いとは言えず、しばしば子どもの樹木画が完全閉鎖系になり、その中にアグレッションが見えている。

このような場合は、母親自身のカウンセリングが必要である。子どもの筆圧が弱く、描線が途切れがちである場合で、母親の筆圧が強く、途切れない描線の場合（本事例の中では、そのような場合、母親の大地線は傾いていることが多い）は、子どもへの養育態度に対しての指導的アプローチに効果があると考えられる。また、母親の樹木画が幼く、依存傾向が強い時、子どもの樹木画だけを見ると、非常に形態の悪い樹木画の様に見えても、母子の間ではそれが、安定している世界である場合もあると考えられる。このように、母子並行面接において、樹木画をとることによって、母親自身のカウンセリングの必要性つまり母親自身をサポートする必要性がある事例と子育ての為のサポート及びアドバイスなどの必要性のある事例を判別することができる。つまり、親子の力動、支え合いに対して、どのような協力体制をもってやっていくのか、考えていくことができる。

表2. 母子間の樹木画の類似点と相違点

子どものだけの樹木画を見ると、子ども担当セラピストが不安になるほど、あまり形態が良くない樹木画が見られることがある。しかし、母親の樹木画をとることにより、子どもの樹木画の意味が分かる。樹冠の大きさ、樹冠下の枝の出かた、根の数、描線のつながり具合、樹皮の描き方など、類似する点が見られた。そのことにより、一見、重大な病理に見られるものが、母子間に共通する表現であり、必ずしも深い子どもの病理とは言えないことが分かる。母親の木が表現しているものが子どもの持つ問題とも密接に関係していると推測された。そのため、セラピーにおいても母親面接が重要である判断できる。また、母親の樹木画において感じ取れる空虚感や肌感覚からは、母親より更に前の世代から伝達される問題の連続性をも感じられた。この世代を越える問題をセラピーで扱っていくことが、やがては子どもの心の安定につながっていく事例があることも推測された。

以上のように、母子の樹木画は、母子並行面接の方向性を定める有効なアセスメントの手段として機能すると考えられる。

(3) 精神疾患と発達障がいの描画の特徴  
 方法：1、A 心理教育相談センターでの初回面接等で得られた樹木画(255)を形式分析(描画の強弱、筆圧、形態の歪み、原始性、象徴性構図、画面構成、など、K. Kochによる)した。現在まだ類型化までは至っていない。また、分析は、それぞれの疾患、障がいが他のものと比べて、その特徴が多いか、少ないかであり、決してそれぞれにおいてしばしば見られるものであるというわけではない。今後はさらに研究を進めてそれぞれの特異的な表現を抽出すること、類型化に努めたい。

	類似点	相違点
	母	子
ケース1	大きい	
子木画	樹形	
	位置	
	樹先端開放	樹下方処理あり(横裏側)
	樹幹内2本の短い枝	
	葉なし	葉あり
	樹幹あり(横皮露出)	大地線なし
	樹皮表現なし	樹皮表現あり(樹皮の短い枝)
	描線にとぎれがなく、筆圧強い	描線にとぎれがなく、筆圧強い
	ブラソコに乗った子ども、鳥	附属物なし
	依存性大	空虚
ケース2	大きい	中程度
母子木画	樹形	
	位置	
	樹先端開放	樹先端処理あり(三文、鋭角)
	樹下方開放	樹下方処理あり(横、鋭角、鈍角)
	葉なし	
	葉なし	
	樹幹あり(縦長露出)	
	大地線なし	大地線あり(横斜あり)
	樹皮表現なし	樹皮表現あり(短い線と間)
	描線にとぎれがなく、筆圧強い	描線にとぎれがなく、筆圧強い
	附属物なし	葉
	依存性大	依存性
ケース3	樹形近似的可能性あり	樹形に入りきらない大きな木
母子木画	位置	小さな木
	樹先端開放	樹先端処理あり(樹冠縁で閉じる)
	樹下方開放	樹下方処理あり(横、鋭角、鈍角)
	樹幹内開放2線枝	葉なし
	葉なし	
	樹幹あり(露出)	横長露出
	大地線なし	
	樹皮表現なし	樹皮表現あり(短い線と間)
	描線にとぎれがなく、筆圧強い	描線にとぎれがなく、筆圧強い
	附属物なし	
	依存性大	
ケース4	疲勞、不安	独特の認知
母子木画	大きい(樹冠に収まる)	大きく樹冠に収まらない
	位置	
	樹先端開放	樹先端処理あり(三文、鋭角)
	樹下方開放	樹下方処理あり(横、鋭角4)
	樹幹内開放2線枝	樹下方処理なし(紙下縁)
	葉なし	樹幹内開放2線枝
	樹幹あり(露出)	
	大地線なし	
	樹皮表現なし	描線にとぎれがなく、筆圧強い
	描線にとぎれがなく、筆圧強い	線と線が重なっているが、筆圧は強い
	附属物なし	
	依存性大	依存性小
ケース5	大きい	不安
子木画	位置	必要さ、樹うつ
	樹先端開放	
	樹下方処理あり(大地線)	樹下方処理なし(紙下縁)
	葉なし	
	葉あり	葉なし
	樹幹あり(露出)	
	大地線あり(横斜あり)	大地線なし
	樹皮表現あり(横皮の短い枝)	
	描線にとぎれがなく、筆圧中程度	描線は透切れがちで、筆圧は弱い
	描線にとぎれがなく、筆圧強い	
	附属物なし	
	依存性小	
ケース6	大きい	自己形成以前
母子木画	位置	小さい
	樹先端開放	樹先端処理あり(三文、鋭角)
	樹下方開放	樹下方処理あり(直線)
	樹幹内2本の短い2線枝	
	葉なし	葉あり
	葉あり	横長露出
	大地線なし	
	樹皮表現あり(横皮の短い枝)	樹皮表現なし
	描線にとぎれはなく、筆圧強い	描線にとぎれがなく、筆圧強い
	描線にとぎれはなく、筆圧強い	
	附属物なし	
	依存性小	
ケース7	大きい	強い防御、攻撃性
子木画	位置	中程度
	樹先端開放	中央
	樹下方処理あり(横、鋭角5)	樹下方処理なし(紙下縁)
	葉なし	樹幹内2本の短い2線枝
	葉あり	葉なし
	樹幹あり(露出)	
	大地線なし	
	樹皮表現なし	
	描線にとぎれはなく、筆圧中程度	描線にとぎれがなく、筆圧強い
	附属物なし	
	依存性大	依存性小
ケース8	空虚、攻撃性	空虚、攻撃性
母子木画	樹形	
	やや上方	中央
	樹先端開放	樹先端処理あり(樹冠縁で閉じる)
	樹下方処理あり(横、鋭角5)	
	1線枝	2本の小さな葉の塊の付いた2線枝
	1線枝	2線枝葉の塊あり
	葉なし	
	樹幹あり(露出)	
	大地線なし	大地線あり(水平)
	樹皮表現なし	
	描線にとぎれがなく、筆圧強い	
	附属物なし	葉、花、雲、太陽
	依存性小	
	空虚、結果	ユーモア、ヒステリー

表3 精神疾患と発達障がいの特徴

有意差(p<0.001)のもののみをまとめた。

診断群	指標	$\chi^2$	P値
うつ病群	乾いた:なし	8.474	0.004**
	樹冠に描かれた弓状の線:なし	7.056	0.008**
	非規則的:なし	7.523	0.006**
	左側の強調:なし	10.626	0.001***
	多くの風景:あり	6.614	0.010**
	地面線:あり	14.602	0.000***
	幹の根元にある地面線:あり	16.461	0.000***
	左斜め上の地面線:あり	8.273	0.004**
	付属品:あり	255	0.000***
	花:あり	10.382	0.001***
神経症群	葉:あり	33.224	0.000***
	暗く(濃く)塗られた実と葉:あり	32.982	0.000***
	右側の広がり:なし	4.493	0.004**
発達障がい群	力強い:なし	8.645	0.003**
	波型:なし	6.643	0.01**
	隙間のない:あり	7.075	0.008**
	かさばる:あり	6.685	0.01**
	積み重ね:あり	9.205	0.002**
	枝の十字交差:あり	6.806	0.009**
	洗練(豊かで細やかな枝分かれ):あり	6.951	0.008**
右へ流れること:あり	6.885	0.009**	

5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計6件)

(1) バウムと文化 杉岡津岐子 臨床心理学 査読有 82-82 10巻 2010年発行

(2) 樹木画の解釈プロセスの変容過程について 査読無 橋本光、杉岡津岐子、後藤智子、鶴田英也ほか 日本心理臨床学会第29回大会論文集 184 2010年発行

(3) 母子並行面接における母親の樹木画 福尾陽子 杉岡津岐子 鶴田英也 後藤智子ほか 日本心理臨床学会第30回大会論文集 185 2011年発行

(4) 樹木画の査定能力の形成過程—イメージ・直観の形成について— 杉岡津岐子・柴田由起・鶴田英也・後藤智子ほか 日本箱庭療法学会26回大会論文集 114-115 2012年発行

(5) 昔話と家族—臨床心理の立場から 杉岡津岐子 2-5 心理・教育相談センター紀要 第4, 5号 2011年発行

(6) 中島法子論文へのコメント—保護停止中の意味 杉岡津岐子 浜松大学臨床心理事例研究 柁4-1 112-114 2012号 2013発行

[学会発表] (計3件)

(1) 樹木画の解釈プロセスの変容過程について 橋本光、杉岡津岐子、後藤智子、鶴田英也ほか 日本心理臨床学会第29回秋季大会 2010 9 23 東北大学

(2) 母子並行面接における母親の樹木画 福尾陽子 杉岡津岐子 鶴田英也 後藤智子ほか 日本心理臨床学会第30回秋季大会 2011 9 4 福岡コンベンションセンター

(3) 樹木画の査定能力の形成過程—イメージ・直観の形成について— 杉岡津岐子・柴田由起・鶴田英也・後藤智子ほか 日本箱庭療法学会大26回大会 2012 10 28 米子市コンベンションセンター

[図書] (計2件)

(1) こども学 第2版 杉岡津岐子編著 全226頁 担当 1-21、126-131 ナカニシヤ出版 2011 1 11

(2) こころを観る・識る・支えるための28章心理学はじめの一步 梅花女子大学心理学科編 全205頁 杉岡津岐子担当 156-161, 172-181 鶴田英也担当 161-177 後藤智子担当 138-143、150-155